

寒冷地デザイン論

選 択

開講年次：3年次後期

科目区分：講 義

単 位：2単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：寒冷地特有の空間やプロダクトなどに関わるデザインについて理解を深める。北海道や北欧をはじめ、諸外国の寒冷地におけるデザイン事例に基づき、その背景と成立プロセスを学ぶ。具体的には、寒冷地をアドバンテージとした地域独自のデザイン事例の紹介と、寒冷地の住まいの機能性を決定する光・熱・空気環境のデザインを学ぶ。

■**到達目標**：①寒冷地のポテンシャルを活かすデザイン提案を行なう力をつける。
②寒冷地の住まいの機能性を決定する光・熱・空気の振る舞いを理解する。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎齊藤 雅也・山田 良

■**授業計画・内容**：

- 第1回 寒冷地をアドバンテージとした空間デザイン1
- 第2回 寒冷地をアドバンテージとした空間デザイン2
- 第3回 寒冷地デザインと建築ディテール
- 第4回 寒冷地デザインと風景・ランドスケープ
- 第5回 室内空間演出とプロダクトデザイン
- 第6回 室内空間を快適にする背景とプロセス
- 第7回 ショートターム課題①
- 第8回 寒冷地デザインの見方・考え方
- 第9回 寒冷地・温暖地の建築環境システム
- 第10回 寒冷地のポテンシャルを活かす住まいの熱環境デザイン〈温房・涼房〉
- 第11回 伝熱のメカニズム（理論と応用）
- 第12回 寒冷地のポテンシャルを活かす住まいの光環境デザイン〈昼光照明〉
- 第13回 光拡散のメカニズム（理論と応用）
- 第14回 寒冷地デザインの建築事例・視察
- 第15回 ショートターム課題②

■**教科書**：授業時にプリント等を配布する。

■**参考文献**：山田：ノルウェーのデザイン（誠文堂新光社）、
齊藤：設計のための建築環境学 日本建築学会編（彰国社）

■**成績評価基準と方法**：定期試験（40%：齊藤）＋授業内レポート（40%：山田）＋出席（15%：共通）＋授業態度（5%：共通）による総合評価（100%）。遅刻は減点対象とする。全15回のうち、10回以上の出席がない場合は齊藤担当の定期試験を受けることができない。前半（山田）・後半（齊藤）の出欠席に偏りがある場合も定期試験の受験可否を判断する。

| 評価方法 | 到達目標 | | 評価基準 | 評価割合(%) |
|---------|-------|-------|------------|---------|
| | 到達目標① | 到達目標② | | |
| 定期試験 | | ◎ | 齊藤 | 40 |
| 授業内レポート | ◎ | | 山田 | 40 |
| 授業態度 | ○ | ○ | | 5 |
| 発表 | | | | |
| 課題・作品 | | | | |
| 出席 | ○ | ○ | 全15回(欠格判断) | 15 |

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：空間デザイン論、環境計画論、住宅論など。

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：製品、コンテンツ、メディアデザインコースの学生の受講を歓迎する。